

## 623. 相對幾何雜話

松村 宗治 (台北大)

(I) 相等的距離  $d =$  對シテハ *Steiner* 氏ノ論文記号ヲ採用シテ

$$(1) \quad d = \sqrt{g_1 g_2 (\varphi_1 - \varphi_2)^2}$$

が成立ツ、記号ハ普通ノ通りデアアル。

今  $d$ ヲ変形スルタト  $= g_1, g_2$ ノ比例中項ヲ  $g_{1,2}$ トスレバ (1)ハ

$$(2) \quad d = \sqrt{g_{1,2} (\varphi_1 - \varphi_2)^2}$$

トナル、(2)ハ

$$(3) \quad d^2 = g_{1,2}^2 (\varphi_1 - \varphi_2)^2$$

即チ

$$(4) \quad d = \varepsilon g_{1,2} (\varphi_1 - \varphi_2)$$

トナル、コゝニ  $\varepsilon$ ハ  $\pm 1$ デアアル。

(4)ハ  $d =$  對スルーツノ表式デアアル。

又 (1)ヨリ

$$(5) \frac{g_1(\varphi_1 - \varphi_2)}{d} = \frac{d}{g_2(\varphi_1 - \varphi_2)}$$

つまり  $d$  は  $g_1(\varphi_1 - \varphi_2)$ ,  $g_2(\varphi_1 - \varphi_2)$  の比例中項である。

$P_i(\varphi_i)$ , ( $i = 1, 2, \dots, n$ ) 及び  $P_0(\varphi_0)$  を相異なる卵形線上の点とし,  $g_k$ , ( $k = 0, 1, 2, \dots, n$ ) を基本卵形線のソレ等, 点=對スル *supporting lines* の函数とし

$$(6) \sum d = \text{Mini.}$$

ナル様 = セン = ハ

$$(7) \sum_{i=1}^n g_0 g_i (\varphi_0 - \varphi_i)^2 = \text{Mini.}$$

トセバ可ナリ、サテ  $\varphi_i$  ハ與ヘラレタリトシ (7) を充ス様 =  $\varphi_0$  を求めン = ハ (7) より求めルトヨイ。

(II) 相對的弧  $\widehat{\alpha}$  の長サハ

$$(8) \widehat{\alpha} = g_{1,2} \left\{ \varphi_1, \varphi_2 \right\}$$

デアルコトが (3) から分ル。

コト =  $\left\{ \varphi_1, \varphi_2 \right\}$  ハ点  $\varphi_1$  と  $\varphi_2$  の間ノ弧ノ長サデアル。

(III) 從ツテ相對的周圍を計算出來ル。

(IV) 次 = 相對的弧ノ長サが一定ノトキ = 相對的弦が亦同時 = 一定ナルモノハ何カトイフ = 上ノ計算ヨリ普通ノ弧ノ長サ一定 = シテ同時 = 普通ノ弦が一定ナルカラ普通

ノ冊 = ナル。

(V) 曲線  $\mathcal{C}$  ヲ 変ヘ ナイ デ 基本卵形線  $\mathcal{M}$  ヲ カヘルト 相對的距離  $\bar{d}$  ハ 次ノ 様 = ナル。

$$(9) \quad \bar{d} = \sqrt{Q_1 Q_2 (\varphi_1 - \varphi_2)^2}$$

ソコデ (1), (9) ヨリ

$$(10) \quad \frac{d^2}{\bar{d}^2} = \frac{g_1 g_2}{Q_1 Q_2}$$

デアル。ツマリ (10) = ヨリ 相對的距離ノ 平方ノ 比ガ 分ル。

(VI)  $\gamma = \varphi + \rho \bar{\xi}_2$  ナル 点ヲ 考ヘ、コレヲ  $A$  中心ト 名ツケル。

サテ  $\mathcal{C}$  ヘノ 切線ヘ  $A$  中心カラノ 距離ヲ  $\rho$  トセバ

$$\rho = \frac{p}{g} = \frac{((\gamma - \varphi)\bar{\xi}_2)}{g} = \frac{\rho(\bar{\xi}_2 \bar{\xi}_2)}{g} = \frac{\rho}{g}$$

トナル。

コト =  $\bar{\xi}_2$  ハ *normal* ノ 方向ヘノ *unit vector* デアリ、 $\rho$  ハ *R.-Abstand*,  $g$  ハ  $\mathcal{M}$  曲線トノ 對應点ニ 於ケル切線ヘ 原点ヨリノ 垂直距離デアルコトハ 普通ノ 通りデアル。

(VII)  $\varphi_1$  ト  $\varphi_2$  トノ 間ノ 相對的距離ガ 一定ナラバ

$$\varphi_1 - \varphi_2 = \pm \frac{\text{const.}}{\sqrt{g_1 g_2}}$$

デアル。ツマリ  $\varphi_1, \varphi_2$  ハ 相對的平行曲線トスル。

ソレ故 =  $x, y$  各ヲ 頂点トスル 三角形ノ 面積  $f$  ハ 次ノ 様 = ナル。

$$f = \frac{1}{2} \sin \omega \left( \frac{\text{const.}}{\sqrt{g(z)g(x)}}, \frac{\text{const.}}{\sqrt{g(y)g(x)}} \right)$$

コト =  $g(t)$  の  $t$  点 = 對應スル点 = 相當スル  $g$  の値アリ,  
 $\omega$  ハニツノ座標軸ノ間ノ角デアル。

尚, 行列式

$$\begin{vmatrix} z_1 - x_1 & z_2 - x_2 \\ y_1 - x_1 & y_2 - x_2 \end{vmatrix}$$

ヲバ

$$(z - x, y - x)$$

ヲ表ハシタ。

(VIII)  $S$  ヲ  $r$ -curve length トシ一 点  $\varphi_0 = \bar{\varphi}_0$  ヲ  
 交ハルニツノ曲線  $C, \bar{C}$  ヲ考ヘル、而シテコノ曲線ヲバ

$$\varphi(s) = \varphi_0 + \varphi_0' s + \frac{\varphi_0''}{2} s^2 + \dots,$$

$$\bar{\varphi}(s) = \bar{\varphi}_0 + \bar{\varphi}_0' s + \frac{\bar{\varphi}_0''}{2} s^2 + \dots$$

トスル、此ニ曲線ガ相對的空間デ  $\varphi_0$  デ  $n$  次ノ切触ヲナス為  
 ヲノ條件ハ

$$\varphi_0' = \bar{\varphi}_0', \dots, \varphi_0^{(n-1)} = \bar{\varphi}_0^{(n-1)}, \varphi_0^{(n)} \neq \bar{\varphi}_0^{(n)}, (n > 1)$$

デアル。

亦相對的空間デ  $\bar{C}$  = 對スル拋物線ノ一般式ハ明 =

$$\bar{\varphi} = \bar{\varphi}_0 + \bar{\varphi}_0' s + \bar{\varphi}_0'' \frac{s^2}{2}$$

デアル。

今特ニ曲線  $C$

$$y = y_0 + y_0' S + y_0'' \frac{S^2}{2} + \dots$$

ト点  $y_0$  デ少クトモ三次ノ切觸ヲナスヤリト拋物線ヲ考ヘレ  
 バコノ様ナ拋物線  $\bar{C}$  ハ唯一ツ存在スル。

コノトキ  $\bar{C}$  ノ式ハ

$$\bar{y} = y_0 + y_0' S + y_0'' \frac{S^2}{2}$$

デアツテコレヲ  $y_0$  = 於ケル  $C$  ノ切觸拋物線トイフコトハ普  
 通ノ微分幾何ニ於ケルガ如シ。

尙進ンデ普通ノ微分幾何ニ於ケル此ノ方面ノ研究ニ相似  
 ノ研究ニシテ然モ相對微分幾何學上有益ナル研究ハ如何。